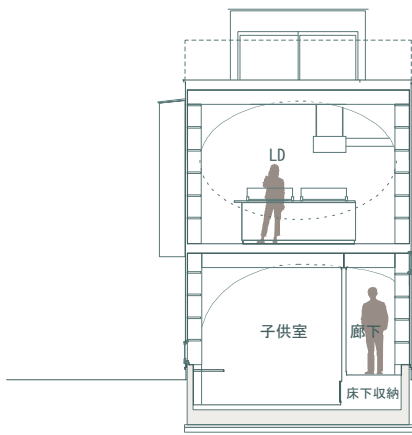
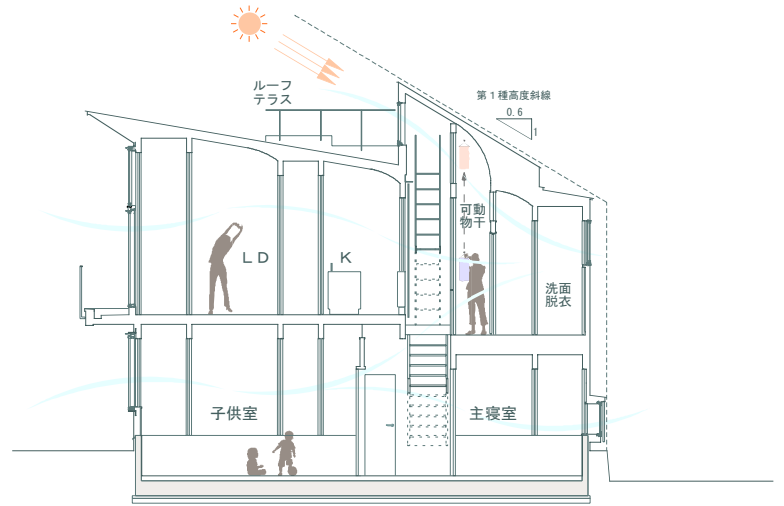




- Oval Panel House
- 敷地面積 : 81.31㎡ (24坪)
- 地区地域 : 第1種低層住居専用地域
- 構造規模 : 木造 2階建
- 延床面積 : 79.58㎡ (24坪 97.87% < 100%)
- 家族構成 : 夫婦 + 子供1人



短片方向断面図



長辺方向断面図 1:100



25坪を切る南北に細長い敷地、  
 (〜よく見かける敷地です〜)  
 木造在来工法で計画すると長  
 辺方向 (〜あまり窓は必要あ  
 りません〜) の耐力壁は余る  
 ほど取れるのに、逆に本当は  
 短辺方向に欲しい南北の開  
 口部は、構造上耐力壁によっ  
 て思うように取れないことが  
 よくあります。

このプロジェクトではそんな  
 相反する要求を相殺して南北  
 面には大きな窓がとれて明る  
 く開放的で風が通り抜ける新  
 しい木構造を模索しています。

■詳しくは説明ページ→(p30)をご覧ください。



■ 2階ダイニングキッチン



■ 2階リビング 3M以上の天井高さがあります。

柱間を有効に利用した収納計画。ピアノや桐箆笥など奥行きの高いものも納まり、インテリアに違和感のあるものはふだんは隠れています。



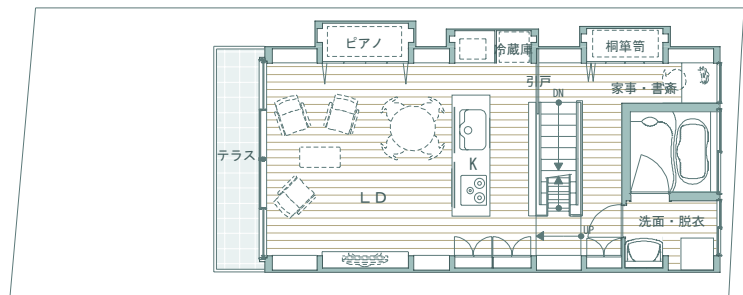
■ 2階LDK 左側ステップは屋上に繋がるはしご階段



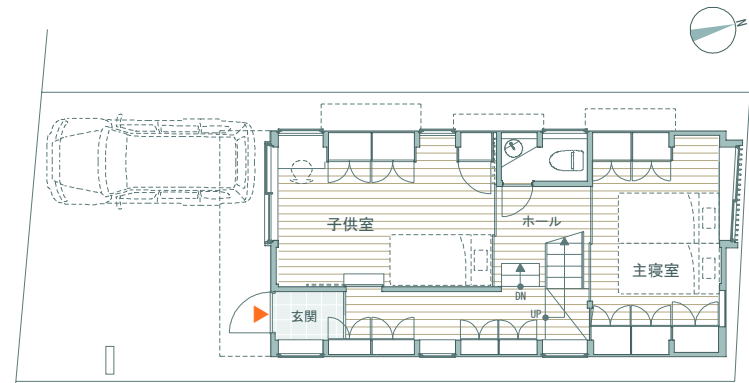
■1階 子供室より階段室方向下に見える小さな扉はレベル差を利用した床下収納。

■1階 子供室 天井高さは約3M。

■ エントランス



2階平面図



1階平面図 1:150

25坪を切る南北に細長い敷地（～よく見かける敷地です～）。木造在来工法で計画すると長辺方向（～あまり窓は必要ありません～）の耐力壁は余るほど取れるのに、逆に本当は短辺方向に欲しい南北の開口部は、構造上耐力壁によって思うように取れないことがよくあります。

このプロジェクトではそんな相反する要求を相殺して、南北面には大きな窓がとれて開放的で風が通り抜ける新しい木構造を模索しています。

クライアントは決して大きいとは言えない敷地に対して、なるべく多くの床面積（～収納や納戸を含めて～）を希望されましたが、そもそも敷地は都市計画公園内にあり、地階および3階建てはNGと言う敷地でした。そこで当初より長辺方向に構造として使えるような収納の「棚」を並べて、壁の中まで有効に使えるように検討しました。

すべての柱・梁は通常の木造のものとは違い、ツーバイフォー構造で使用する非常に平たい木材（38mm×286mm）を使っています。構造材をそのまま見せて柱の間が収納棚になる訳です。ピアノや桐箆笥などもこの柱間に収納され隠れるようになっていきます。



■ 上下に可動する物干用のバー



2枚で1組になる柱・梁には、その間に接合強度を増すための、楕円形状に加工した補助材（Oval Panel）が挟み込まれています。楕円は背丈を邪魔することなく、またより強く接合させるために、その形状が導き出されており、構造的に非常に重要な役割をはたすと同時に、デザイン的にもこの建物を印象づけるメインの材になっています。

普通の木構造では必要になってしまう短片方向の耐力壁を極端に少なくなるすることができたので、1、2階とも引戸を開け放てばワンルームのような平面計画が可能になり、家全体を通して家族の気配が感じられるような計画になっています。

プラン中央にある階段室とトップサイドライトは、奥行きのある建物の1階にまで明るい日差しを落とし、気持ちの良い風を抜けます。同時にトップサイドライト横には、上下に可動する物干用のバーを用意して、天気や季節を気にせずに洗濯物が干せるようにしています。

狭小敷地に北側一杯に建てるために、60 cmほど下がっている隣地と同じぐらい建物を掘り下げて高度斜線をかわしています。結果、腰高となったコンクリート基礎の上に土台材はなく、すべての柱梁も内部に露出しているため（外断熱仕様）木材にとって良好条件となっています。

閉所恐怖症のクライアントが最初から望まれた閉塞感のない開放的な空間が提供できたと思っています。

